

＜先週の説教から＞

『ルカ51—心からあふれ出るもの』

武田真治牧師

イザヤ 32:6~8 ルカ福音書 6:43~45

『ルカによる福音書』の6章39節には「イエスはまた、たとえ話をされた。」とあり、その後に“6つのたとえ話”が続けて記されています。これら6つのたとえ話には共通するテーマがあるといえます(共通するテーマの元で集められているともいえます)。そのテーマが“今、自分の目に見えるものだけで人を判断してはいけない”です。特に今日の二つのたとえ話『実によって木を知る』と『人は心の倉からあふれ出ることを語る』がまさにそうだといえます。

最初のたとえ「悪い木を結ぶ良い木ではなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる」の「木」こそ“人間”を指します。その“実”については色々な解釈が為されているのですが、ここで「結ぶ」と訳されている原語は(ポイエオー)という言葉で、普通は「行う、為す」と訳されていますから、イエス様が考えておられた“実”とは、その人の「行動や言葉」でしょう(特にここでは実績と考えられます)。故に、人を判断する時には、見た目や印象、服装や出自など、自分が今、見ている様子だけで人の評価を下してはいけない。その人の行為や言葉をちゃんと知ってから判断しなさいといえだといえます。考えてみれば、実際にその人の行為や言葉を“知る=見る”ためには、その人と知り合い、向き合う必要が生じるのではないか? 見た目だけで判断することの“危うさ”は私たちも経験していることではないでしょうか。

同じことが、次に続いたたとえ話でもいえます。即ち「善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである」です。この教えも、上記の“実”的に「言葉」に重点が置かれているといえます。浮わついたお世辞や表面的な讃美言葉を、真に受けていると大きな間違いを犯してしまいます。それらも含めて、

その人の言葉から、その人の心=本音、本心をちゃんと聞き分けるようにしなさいという教えでしょう。翻って、このたとえ話からとても反省させられることは、自分の「心の倉」の中には“良き言葉”が入っているだろうかという点です。

今日のたとえ話と『ヨハネによる福音書』15章にあるイエス様の有名な「わたしはまことのぶどうの木。人がわたしにつながっていれば豊かに実を結ぶ」というたとえ話は同じことを教えられているように思います。そのヨハネ福音書の言葉は更に「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば」と続きます。「心の倉」に蓄えるべき言葉はイエス様の言葉であり、聖書の言葉なのではないでしょうか。他人の評価や自分勝手な考えではなく、主のみ言葉こそ「あふれ出て」来て欲しい!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 8月27日(水) 20:00
II. 8月28日(木) 10:30

聖書研究：ローマの信徒への手紙
祈祷主題：富士見幼稚園理事会を覚えて
担当者：(水)金刺 (木)北條
祈りに覚える人：矢崎さん 山田さん

【教勢報告】

主日礼拝 男21 女52 計73
祈祷会 I. 男4 女3 計7 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科6 小中科10 計16

【次週主日礼拝】 8月31日(日)

聖書：詩編 54:1~9
マタイによる福音書 26:36~46
説教：「詩編54—神よ、耳を傾けてください」
武田 真治 牧師

讃美歌：202(1)、32、351、440、510、88(1)

【次週当番表】

司式：保坂長老 奏楽：村上 礼拝：坂田長老
献金：鶴巻 寺本 受付：北條 大野
会堂準備：伊藤 伊藤 岩井 岩井
看板：岩佐 週報：高橋 お花：休み

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会 ・求道者会
礼拝後：

66 - 34

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 8月 24日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549